

株式会社SBI証券

決算説明資料

～ 2024年3月期 第3四半期 ～

2024年2月7日

本資料に掲載されている事項は、当社のご案内の他、事業戦略等に関する情報の提供を目的としたものであり、当社の発行する株式その他の有価証券への投資の勧誘を目的としたものではありません。なお、当社は本資料に含まれた情報の完全性及び事業戦略など将来にかかる部分については保証するものではありません。また、本資料の内容は予告なく変更または廃止される場合がありますので、予めご承知おきください。

＜決算概況＞ 2024年3月期 第3四半期業績

(単位:百万円)

	2023年3月期 第3四半期 連結 (2022年4月～12月)	2024年3月期 第3四半期 連結 (2023年4月～12月)	前年同期比 増減率(%)
営業収益	126,584	過去最高 151,734	+19.9
純営業収益	117,021	過去最高 136,808	+16.9
営業利益	44,131	過去最高 53,167	+20.5
経常利益	42,929	過去最高 54,064	+25.9
親会社株主に帰属 する四半期利益	29,934	36,221	+21.0

<決算概況> apples-to-applesの主要証券会社の2024年3月期 第3四半期業績比較

(単位:百万円)

		営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益
1	野村証券(単体)	100,931	100,855	76,290
2	大和証券(単体)	55,204	57,044	39,079
3	SBI証券(連結)	53,167	54,064	36,221
4	三菱UFJMS証券(単体)	44,783	46,741	33,216
5	みずほ証券(単体)	30,963	30,751	26,557
6	楽天証券※1(連結)	22,627	22,462	13,507
7	SMBC日興証券(単体)	15,722	25,171	19,897
8	松井証券(非連結)	10,806	10,721	7,029
9	GMOFHD※1(連結)	10,676	10,251	5,391
10	東海東京FHD(連結)	10,501	11,467	7,123
11	岡三証券G(連結)	10,120	11,384	9,782
12	マネックスG※2(連結)	8,714	8,741	6,542
13	岩井コスモHD(連結)	5,212	5,573	3,908
14	auカブコム証券(非連結)	3,174	3,246	1,731
15	丸三証券(連結)	2,104	2,567	1,771
16	極東証券(連結)	1,723	2,321	2,727
17	いちよし証券(連結)	1,583	1,628	1,113
18	水戸証券(連結)	1,313	1,687	1,320
19	アイザワ証券G(連結)	514	1,109	1,135
20	東洋証券(連結)	474	763	695

※1 楽天証券およびGMOフィナンシャルホールディングスについては、12月決算期の会社であるため、2023年4月～2023年12月の期間での数値を使用

※2 マネックスグループはIFRSであり、営業利益は営業利益相当額の値を使用 ※3 各社の営業利益順に記載 出所: 各社WEBサイト等の公表資料より当社集計

<決算概況> 四半期毎の業績推移

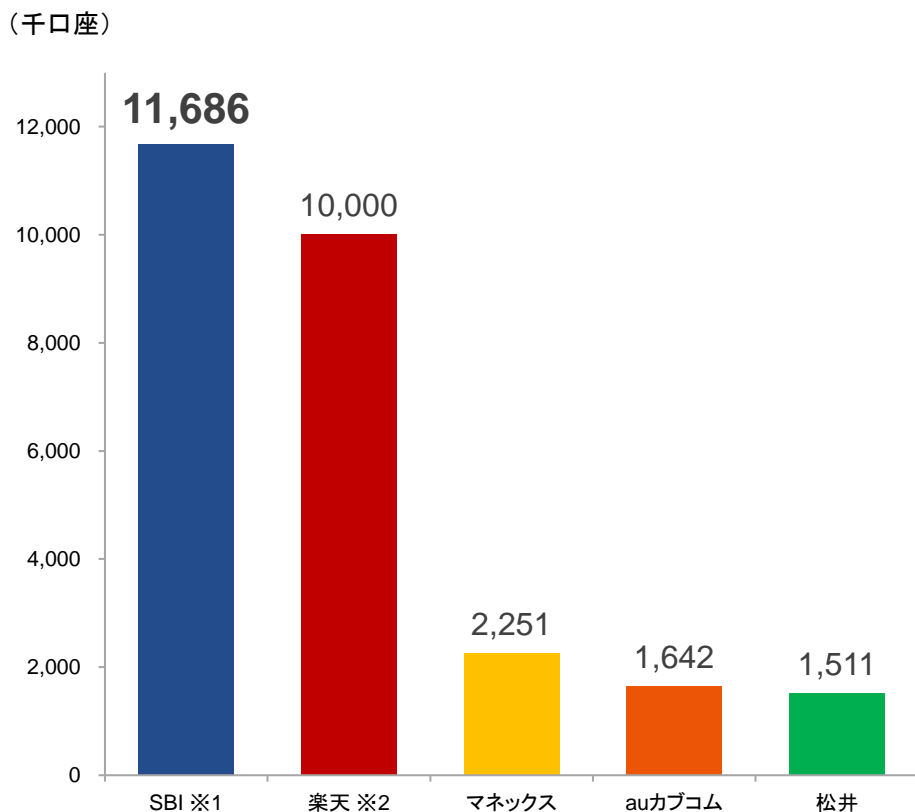
(単位:百万円)

項目	2023年3月期				2024年3月期			前四半期比 増減率(%)
	第1四半期 (22年4~6月)	第2四半期 (22年7~12月)	第3四半期 (22年10~12月)	第4四半期 (23年1~3月)	第1四半期 (23年4~6月)	第2四半期 (23年7~9月)	第3四半期 (23年10~12月)	
営業収益	38,133	42,706	45,745	48,469	51,050	51,040	49,643	▲2.7
純営業収益	35,444	39,334	42,242	44,549	45,328	46,502	44,977	▲3.3
営業利益	12,161	14,185	17,784	17,998	18,399	18,645	16,122	▲13.5
経常利益	12,104	13,149	17,675	18,021	18,735	18,832	16,496	▲12.4
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	8,484	8,800	12,649	11,532	13,097	12,534	10,589	▲15.5

主要インターネット証券口座数比較

- インターネット証券初の1,100万口座を突破。

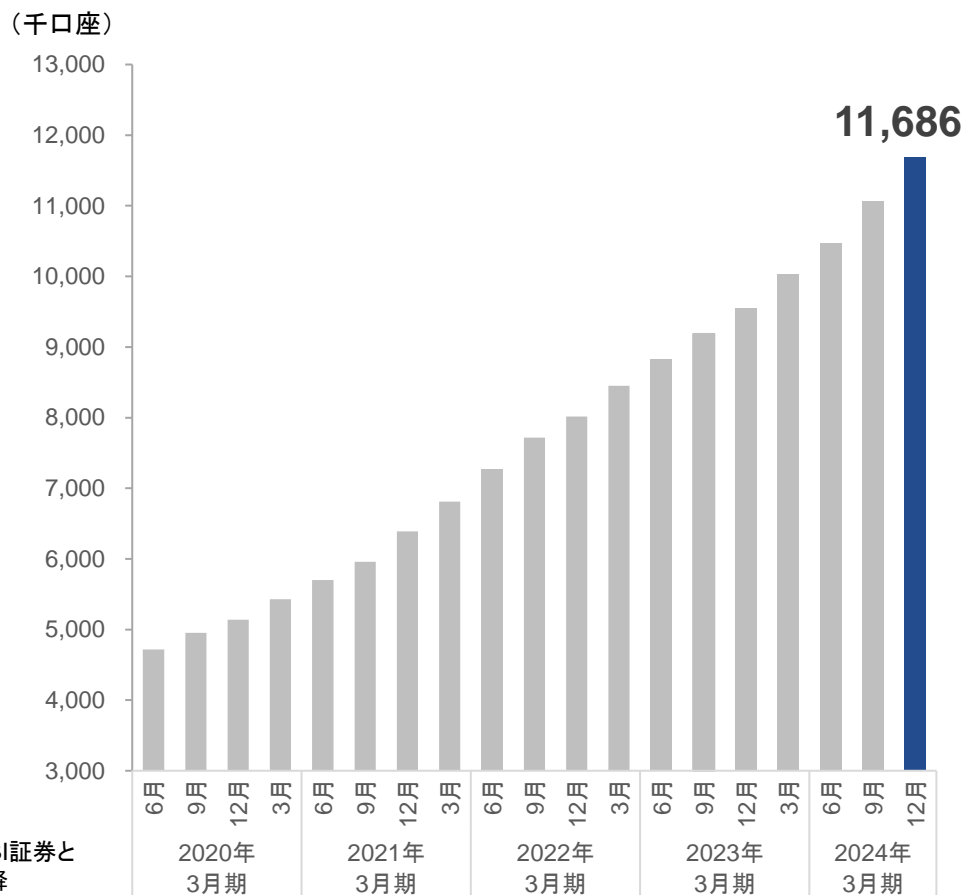
＜主要インターネット証券5社の口座数＞ (2023年12月末時点)



※1 SBIの口座数には、2019年4月末以降SBIネオモバイル証券(2024年1月9日、SBI証券と合併)の口座数、2020年10月末以降SBIネオトレード証券の口座数、2021年8月末以降FOLIO口座数を含む

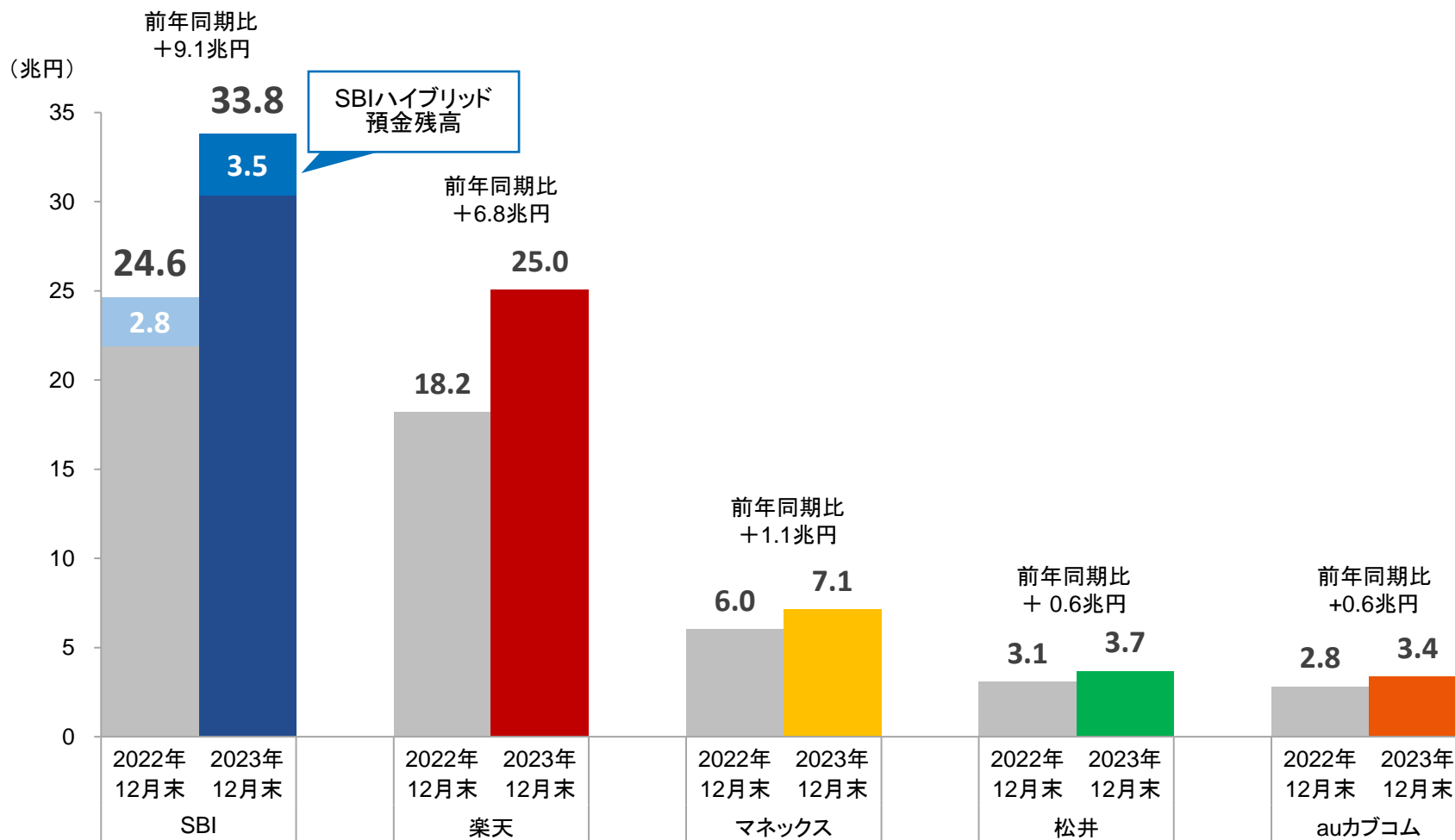
※2 楽天証券の口座数は、2023年12月5日公表の同社プレスリリース掲載の数値
主要インターネット証券5社はSBI証券、楽天証券、マネックス証券、松井証券、auカブコム証券

＜口座数推移＞※1 (各月末推移)



主要インターネット証券の預り資産残高比較

- SBIハイブリッド預金残高を含めると、SBIの2023年12月末預り資産残高は前年同期比37.1%増の約33.8兆円。



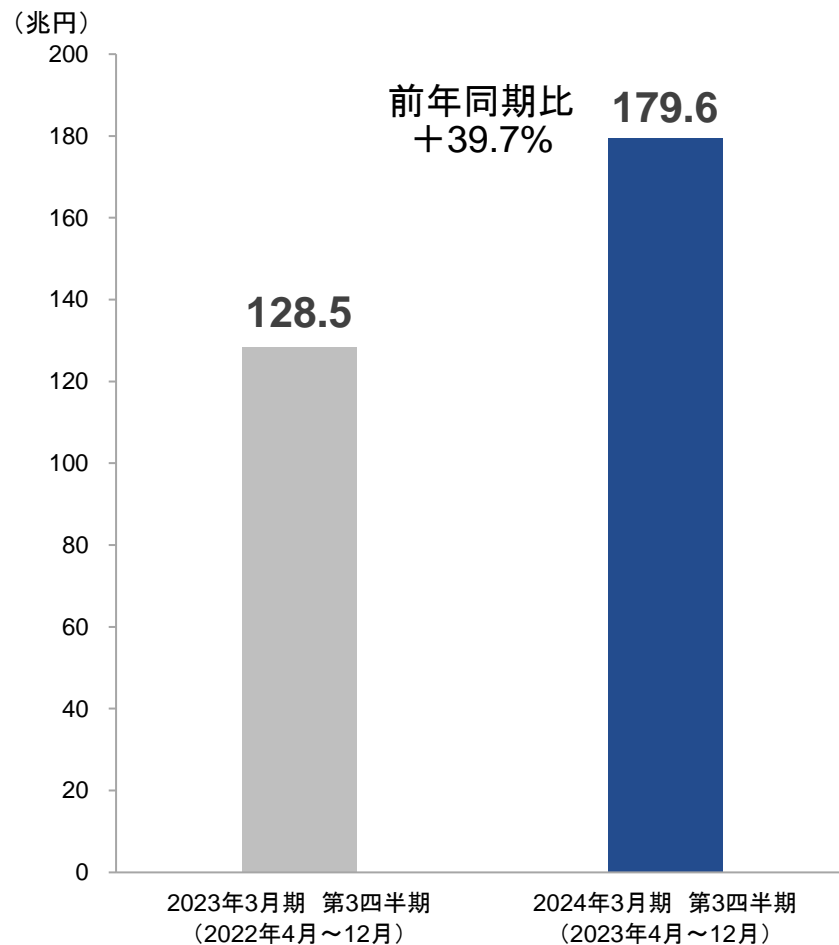
主要インターネット証券5社はSBI証券、楽天証券、マネックス証券、松井証券、auカブコム証券

※SBIの預り資産残高には、2019年4月末以降SBIネオモバイル証券(2024年1月9日、SBI証券と合併)の預り資産残高、2020年10月末以降SBIネオトレード証券の預り資産残高、2021年8月末以降FOLIO預り資産残高を含む

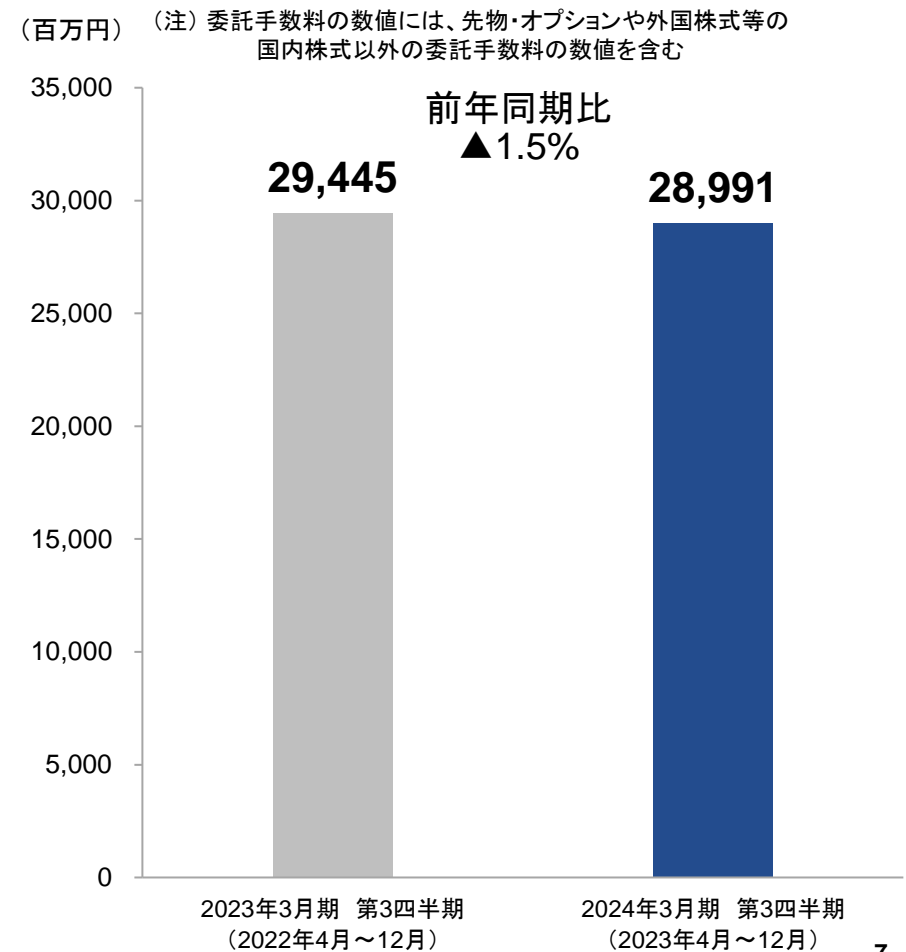
出所: 各社WEBサイトの公表資料より当社集計

委託売買代金と委託手数料の動向

＜国内株式委託売買代金＞



＜委託手数料＞

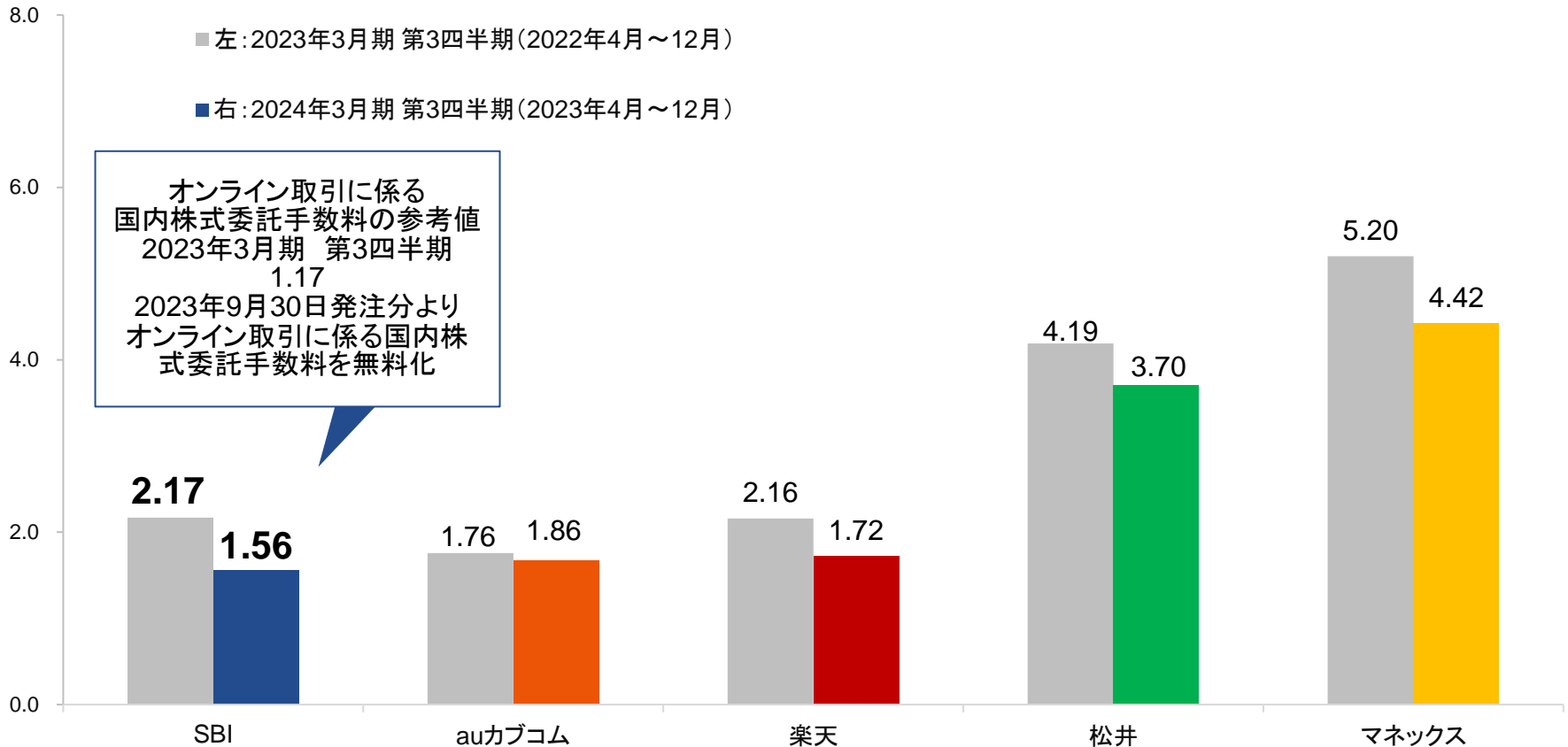


主要インターネット証券のベースス比較

(委託手数料 ÷ 委託売買代金)

(注) 委託手数料の数値には、先物・オプションや外国株式等の国内株式以外の委託手数料の数値を含む

(ベース)



主要インターネット証券5社はSBI証券、楽天証券、auカブコム証券、マネックス証券、松井証券
※ マネックスの数値は、マネックス証券を含むマネックスグループ「日本セグメント」委託手数料の数値を使用

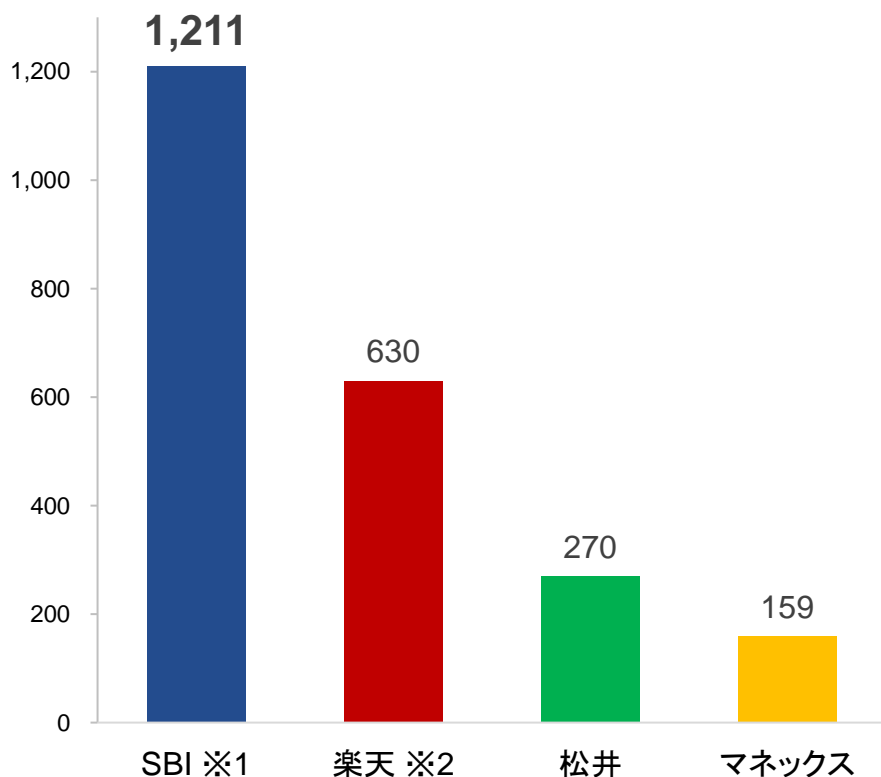
出所: 各社決算資料、月次開示資料等より当社作成
委託手数料は決算短信より数値を使用

主要インターネット証券の信用取引口座数比較

<主要インターネット証券の信用取引口座数>

(2023年12月末時点)

(千口座)



※1 SBIの口座数には、2020年10月末以降SBIネオトレード証券の口座数を含む

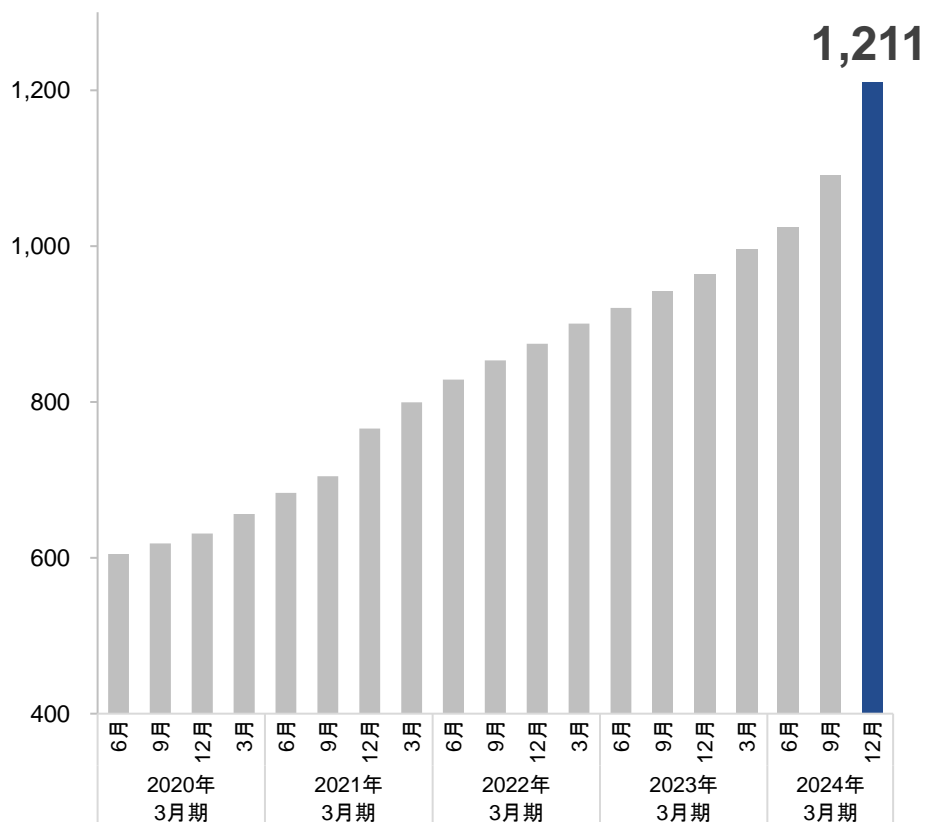
※2 楽天証券は2023年6月末の数値

データを開示している楽天証券、マネックス証券、松井証券及びSBI証券の4社の数値を比較

<信用取引口座数推移> ※1

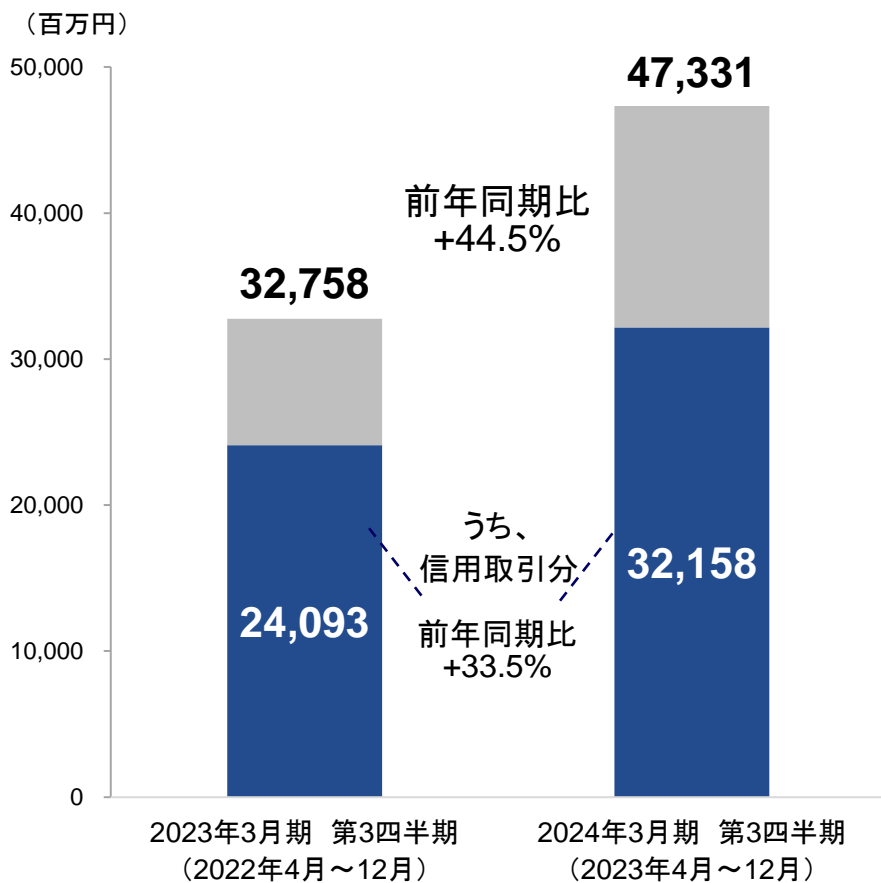
(各月末時点)

(千口座)

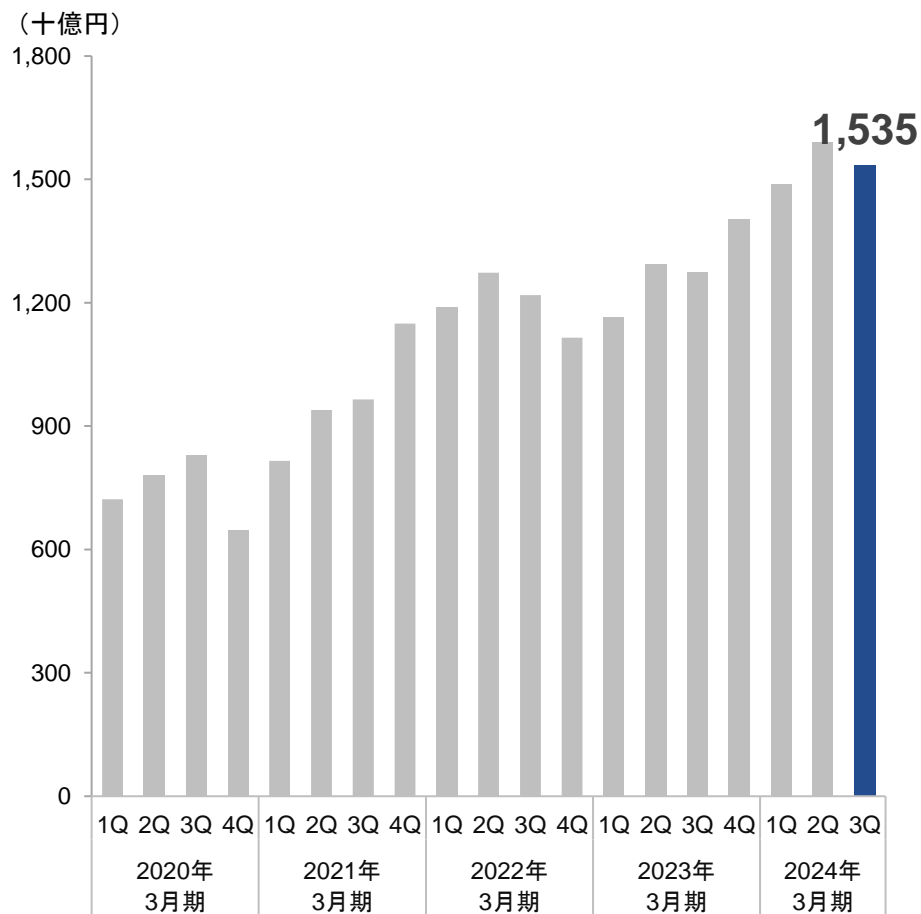


金融収益と信用取引建玉残高の推移

<金融収益>



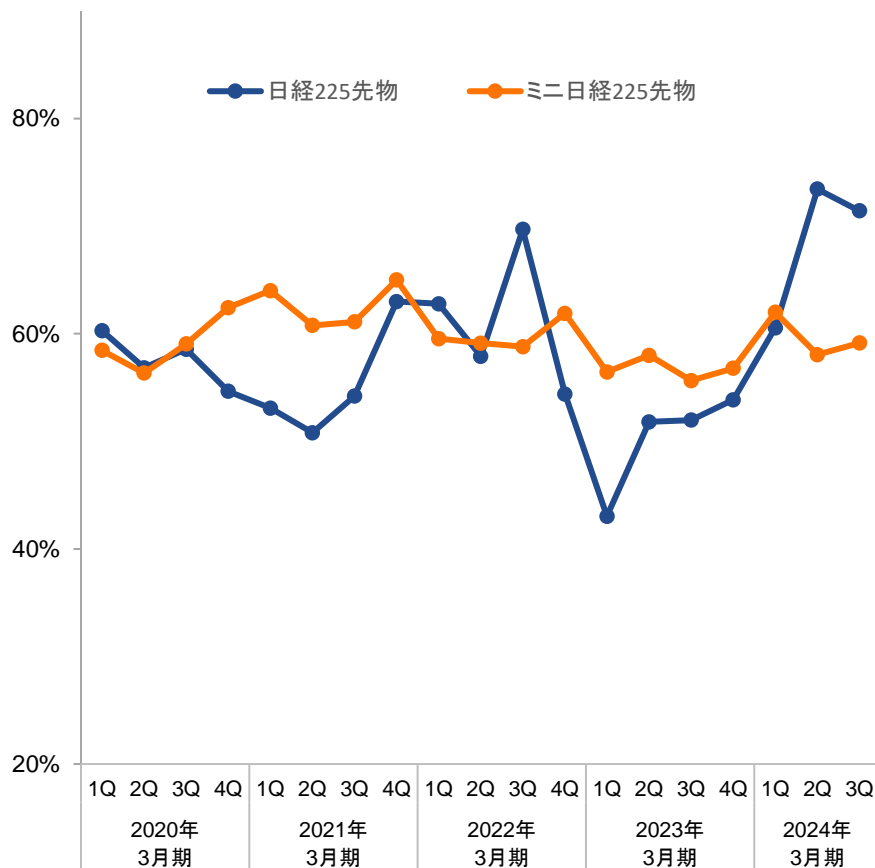
<信用取引建玉 月末残高の推移>



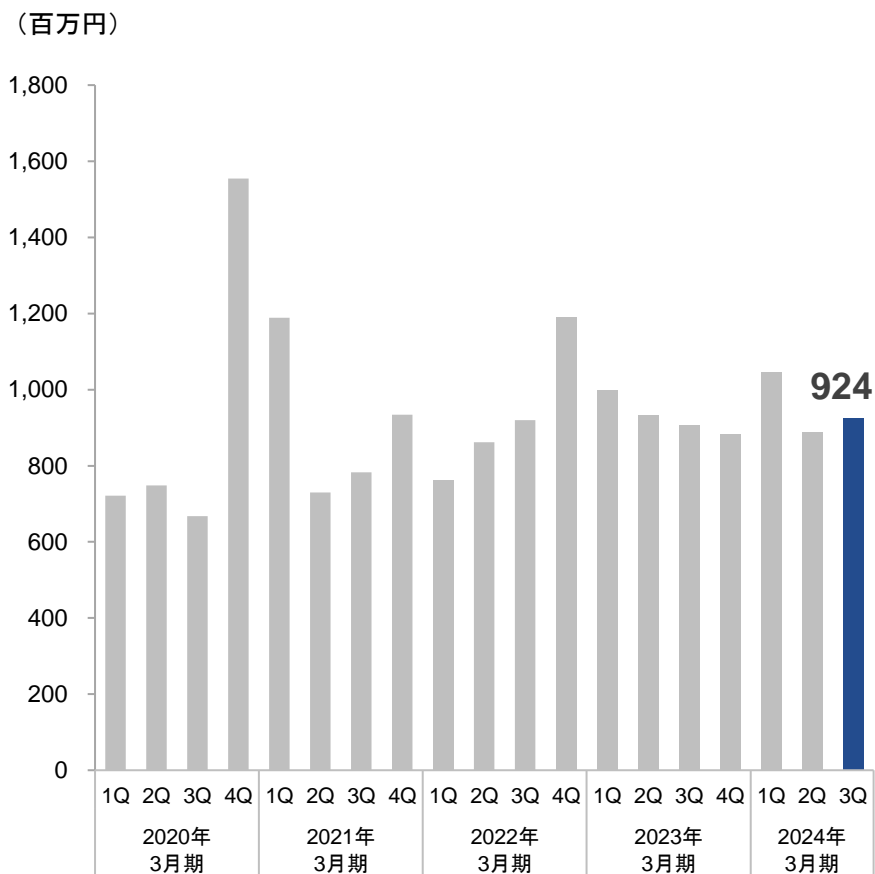
先物・オプション売買代金シェアと手数料の推移

- 先物・オプションの委託個人売買代金シェアは、引き続き高水準を維持。

<先物・オプション 委託個人シェア>

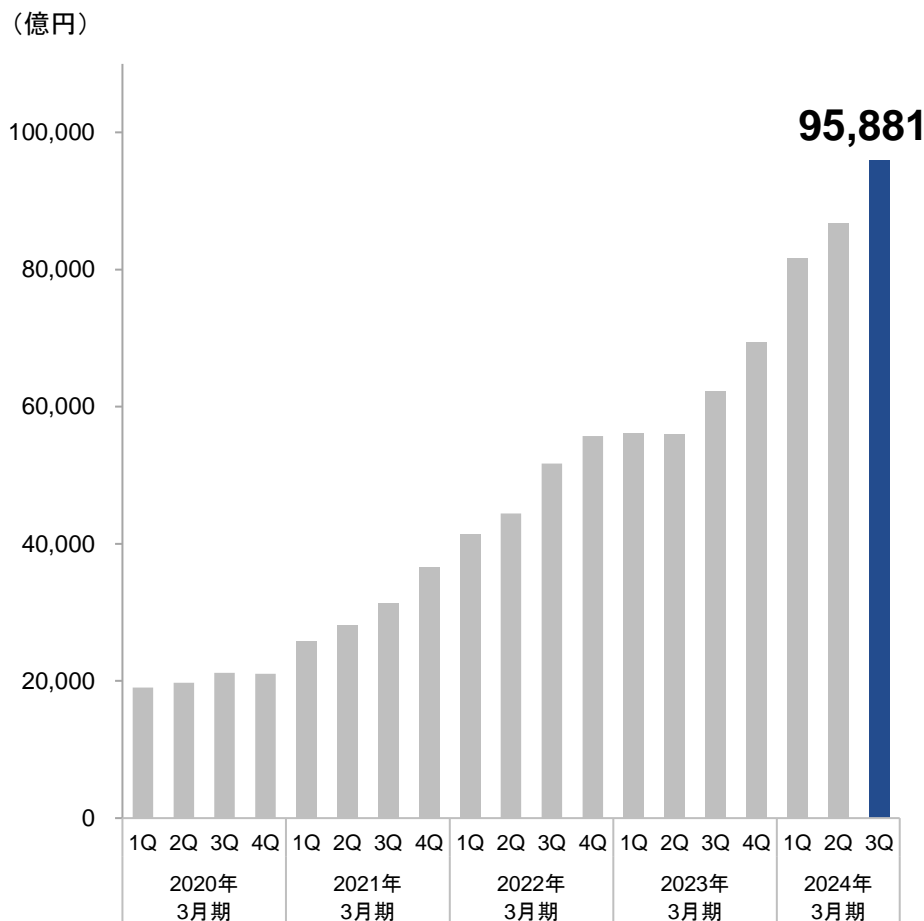


<先物・オプション収益>

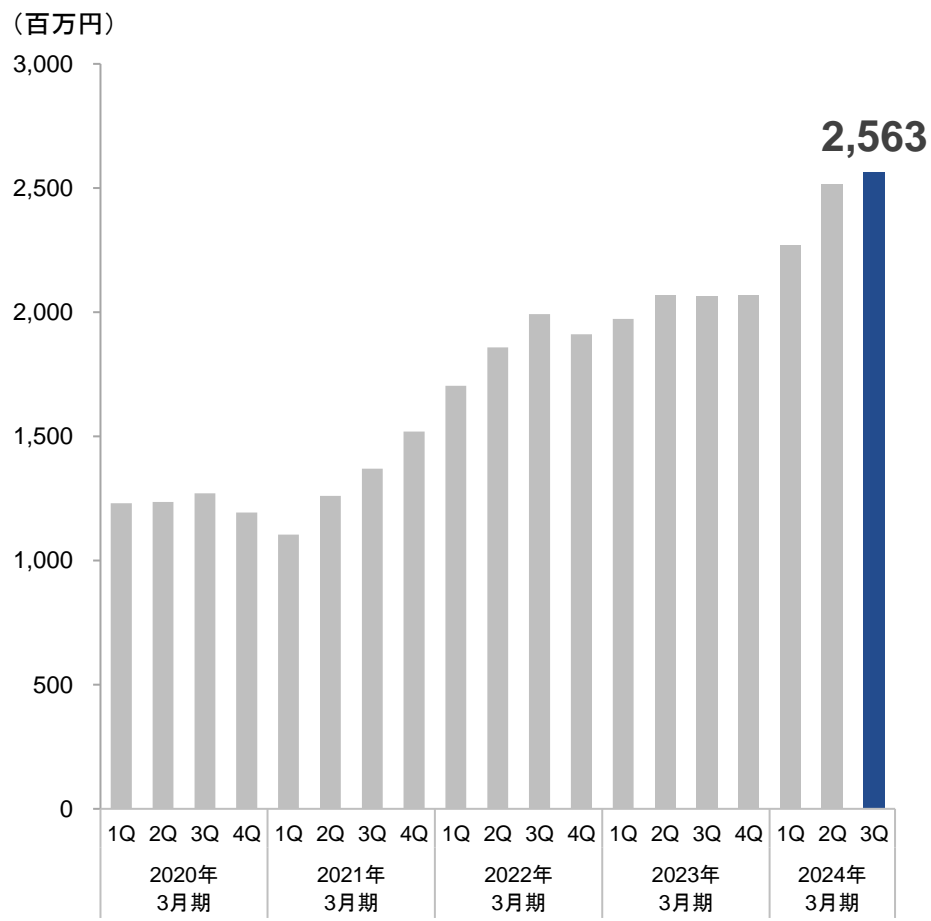


投資信託残高と信託報酬の推移

<投資信託 四半期末残高>



<投資信託 信託報酬額>

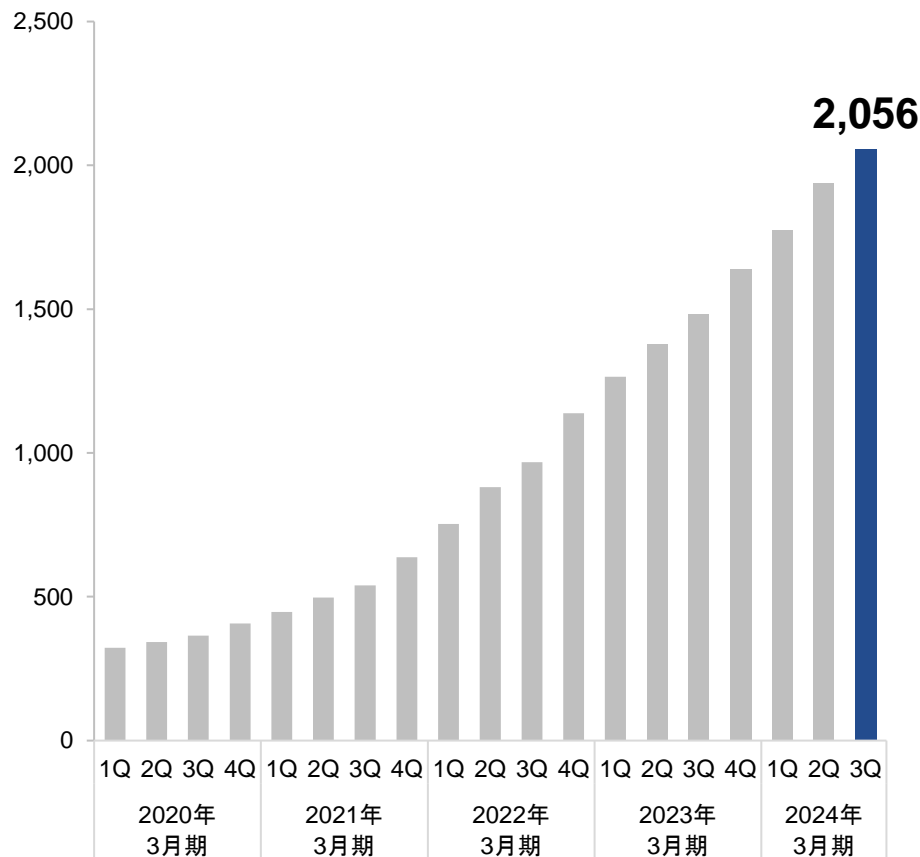


※国内外ETF、外貨建てMMFを含む

投信積立設定口座数・金額の推移と取扱商品状況

＜投信積立口座数の推移＞

(千口座)

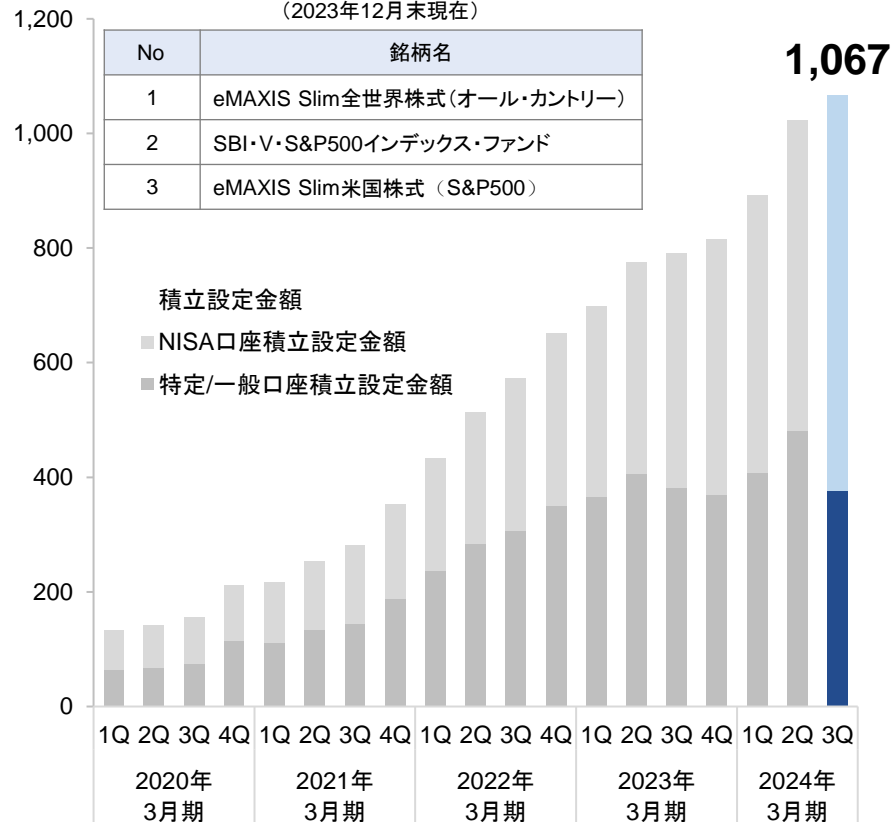


＜投信積立金額の推移＞

(億円)

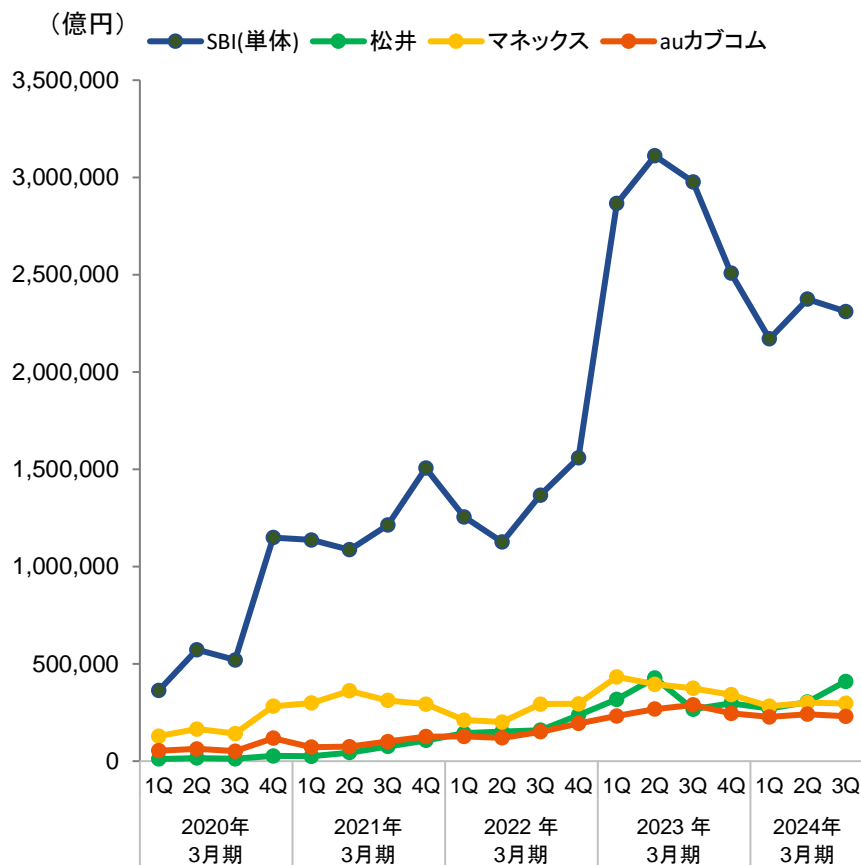
＜売れ筋ファンド-積立設定金額上位銘柄＞
(2023年12月末現在)

No	銘柄名
1	eMAXIS Slim全世界株式(オール・カントリー)
2	SBI・V・S&P500インデックス・ファンド
3	eMAXIS Slim米国株式 (S&P500)

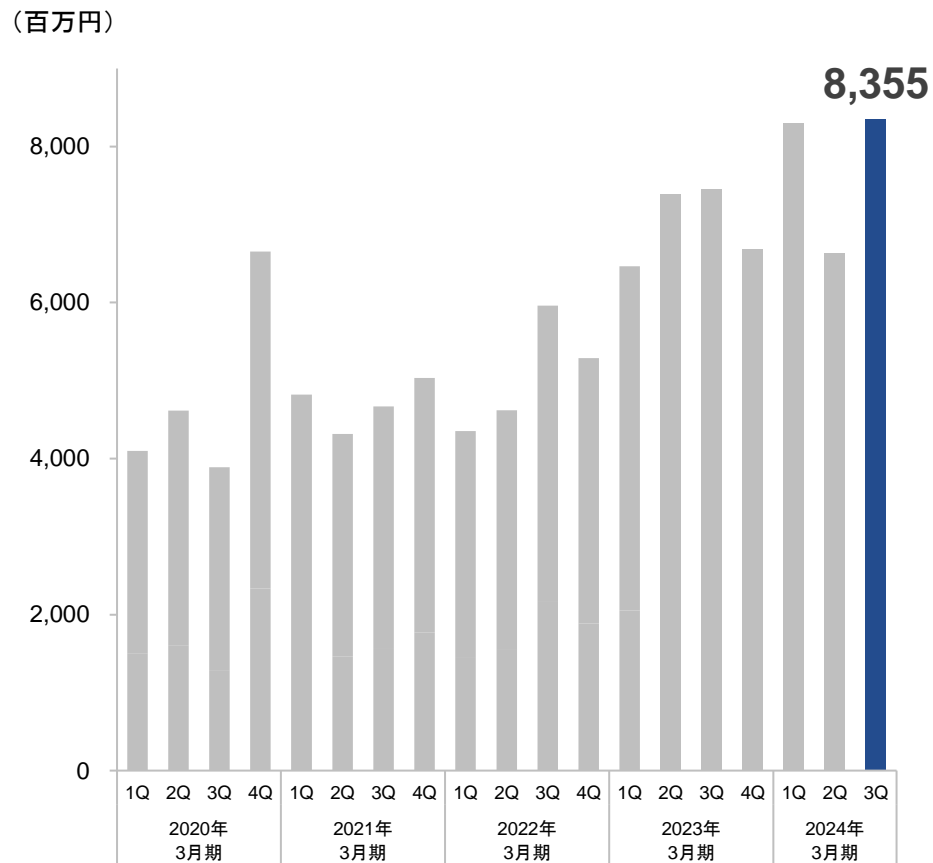


FX売買代金と収益推移

<主要ネット証券 FX売買代金推移>



<FX収益推移>



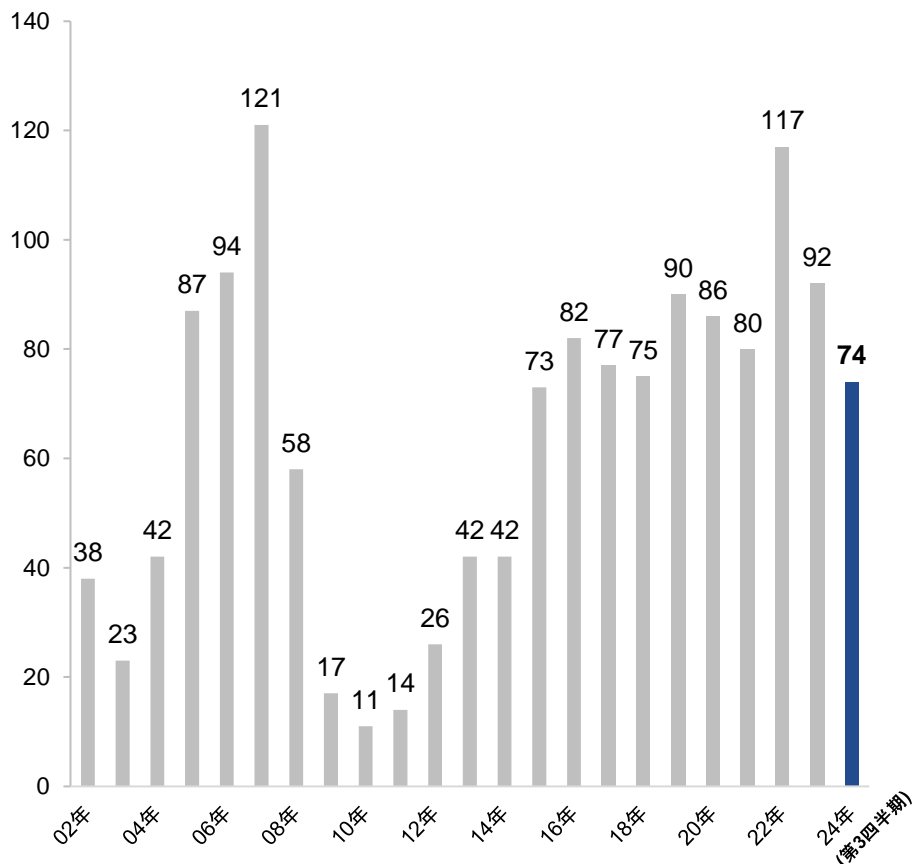
※ データを開示しているマネックス証券、松井証券、auカブコム証券およびSBI証券の4社の数値を比較

新規公開株式(IPO)の引受実績

- 2023年4月から2023年12月までの上場会社数は79社。
- 同期間のSBI証券引受関与率は93.7%と引き続き業界トップ。

<IPO引受実績>

(引受社数)



※業者委託は含まない、上場日ベース、委託販売・不動産投信を除く
 ※TOKYO PRO Marketを除く数値にて集計

<IPO引受社数ランキング(2023年4月~12月)>

社名	件数	関与率
SBI	74	93.7%
松井	53	67.1%
楽天	48	60.8%
日興	45	57.0%
マネックス	42	53.2%
岡三	40	50.6%
みずほ	36	45.6%
大和	35	44.3%
野村	34	43.0%
岩井コスモ	30	38.0%

※集計対象は新規上場企業の国内引受分で、追加売出分と海外は含まず
 ※引受関与とは、自社の主幹事案件含む引受銘柄数
 ※各社発表資料より当社にて集計

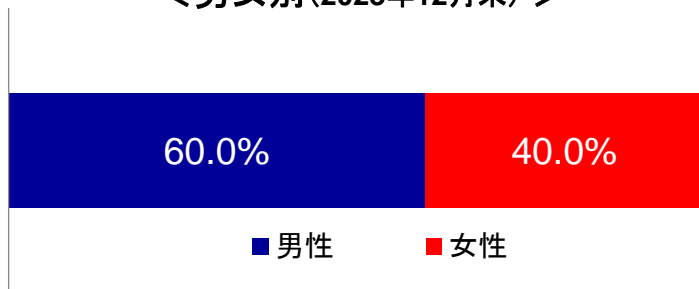
NISA口座の状況

<NISA口座数(2023年12月末累計)>

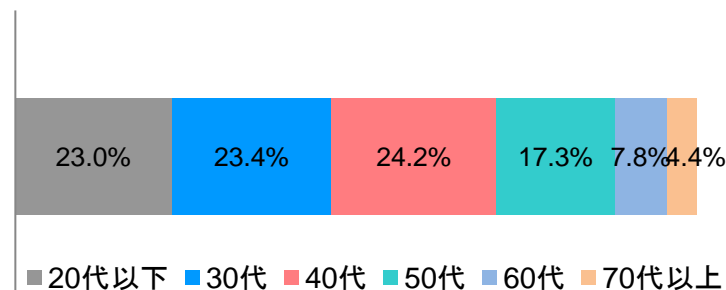
口座数	437万口座
-----	--------

※上記数値はNISA、つみたてNISA、ジュニアNISA口座の合算値より、みなし廃止口座を除外した数値

<男女別(2023年12月末)>

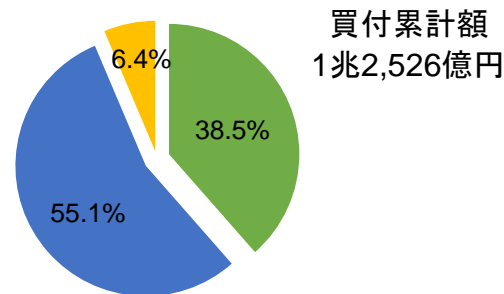


<年代別(2023年12月末)>



※上記数値はNISA、つみたてNISA、ジュニアNISA口座の合算

<買付商品の内訳(2023年1月~12月累計)>



■国内株式 ■投資信託 ■外国株式

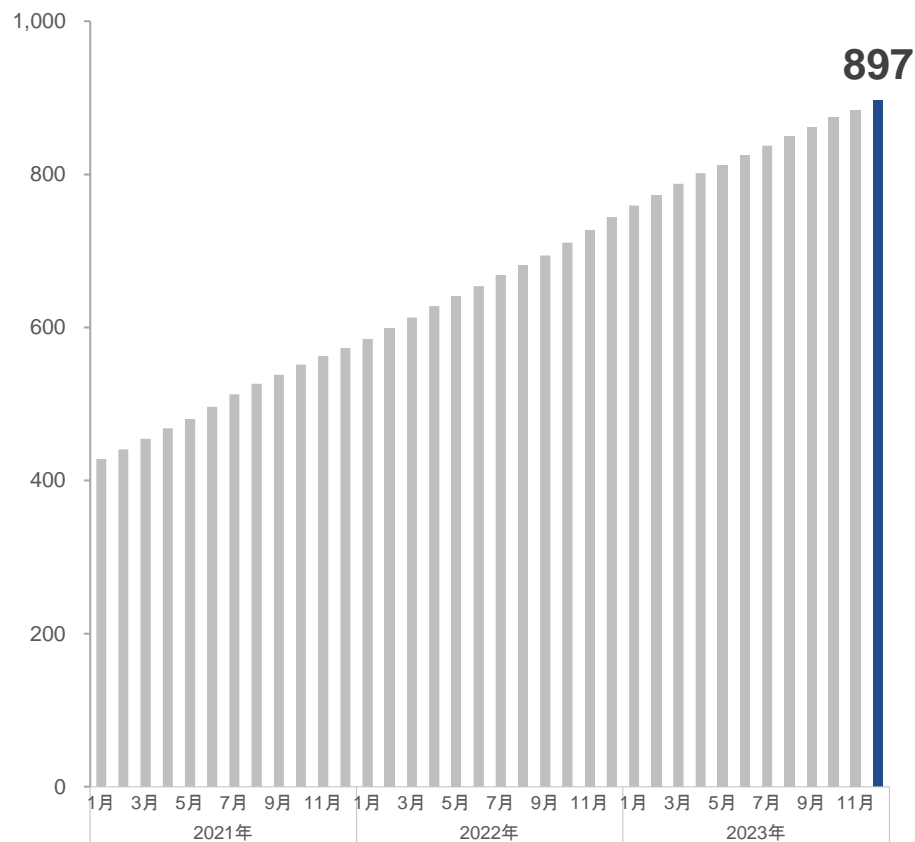
<国内株式買付金額上位銘柄(2023年1月~12月累計)>

No.	銘柄名(銘柄コード)
1	日本電信電話(9432)
2	日本たばこ産業(2914)
3	三菱UFJフィナンシャルグループ(8306)
4	トヨタ自動車(7203)
5	日本郵船(9101)
6	商船三井(9104)
7	オリエンタルランド(4661)
8	三菱HCキャピタル(8593)
9	日本製鉄(5401)
10	SBIホールディングス(8473)

iDeCo口座数・残高の推移

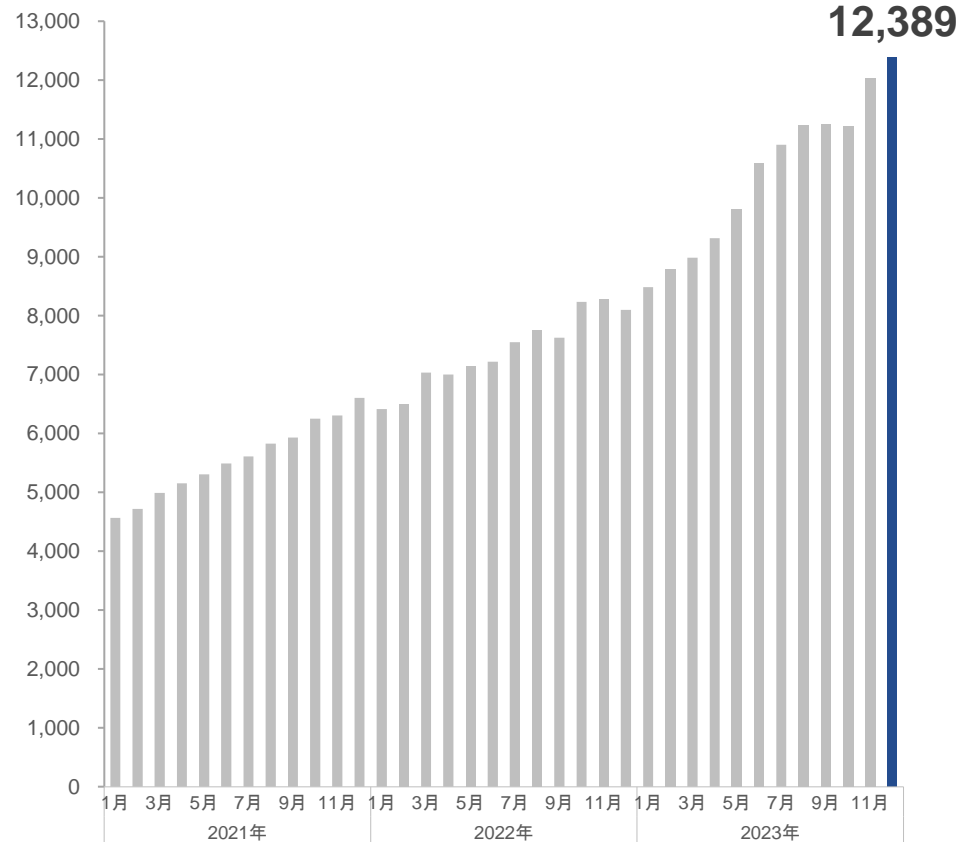
<iDeCo口座数の推移>

(千口座)



<iDeCo残高の推移>

(億円)



※加入者・運用指図者の合計
 ※出所: 国民年金基金連合会

※残高は当社集計

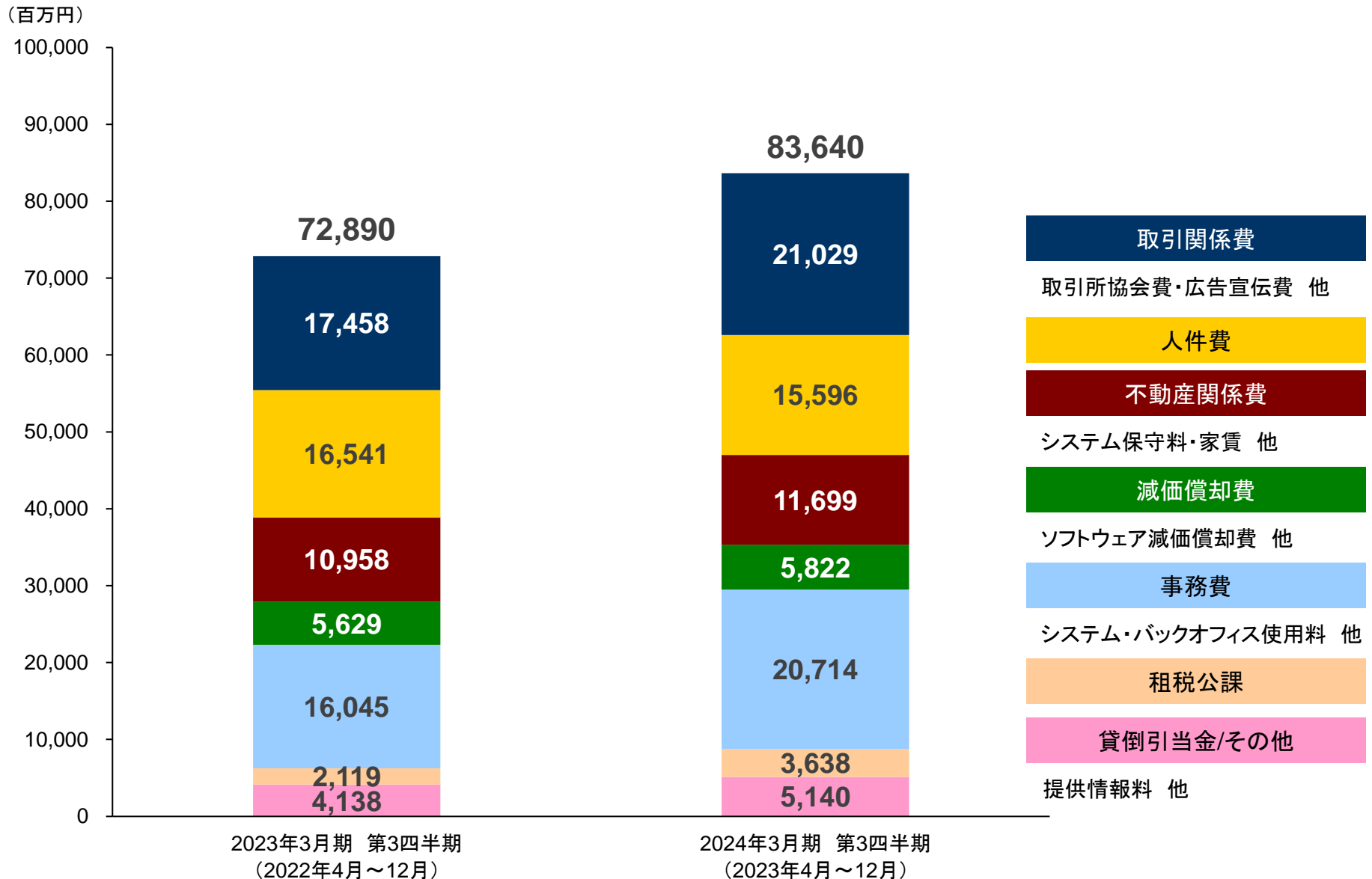
2024年3月期 第3四半期の主な取り組み

実施時期	取組み内容
2023年 4～6月	<ul style="list-style-type: none"> • “タツノコプロ×SBI証券コラボ”WEB CM 4月3日配信開始(4月) • SBI新生銀行との自動入出金サービス「SBI新生コネクト」の開始(4月) • 米国株価・米国株価指数を全面リアルタイム化 すべてのお客さまに無料で提供(4月) • 株式会社北洋銀行との金融商品仲介業サービス開始(4月) • 「SBIヒートマップPlus」提供開始(4月) • 「日経225マイクロ先物」「日経225ミニオプション」取扱い開始(5月) • オリコカードでのクレジットカード投信積立サービス「オリコ投信積立」開始(5月) • 株式会社大光銀行との入金サービス「大光銀行 リアルタイム入金」提供開始(5月) • 株式会社愛媛銀行によるSBI証券の個人型確定拠出年金(iDeCo)の紹介開始(5月) • 「SBI FXα」ポイントプログラム開始(6月) • 「SBI新生銀行・SBI証券の同時口座開設申込」受付開始(6月)
2023年 7～9月	<ul style="list-style-type: none"> • 「SBI証券のiDeCo」での「DC Doctor」の提供を開始(7月) • 「SBIラップ 匠の運用コース」の提供を開始(7月) • 本邦初、米国株英語ニュース自動翻訳サービスを開始(7月) • TOKYO PRO MarketのJ-Adviser資格を取得(8月) • 「日経225マイクロ先物」「日経225ミニオプション」の手数料の引き下げ(8月) • 投資初心者向けの新サービス「はじめて信用™」の提供を開始(8月) • 国内主要証券初、TポイントとPontaポイントで「国内株式(現物)ポイント投資」サービスを開始(8月) • 主要ネット証券初、条件達成で米国株式信用取引手数料が無料(0ドル)になる大口優遇プログラムを開始(9月) • 国内株式の売買手数料無料化(「ゼロ革命」)を実施(9月) • 「ゼロ革命」の第2弾として、新NISAにおける米国株式および海外ETF売買手数料の無料化を決定(9月)

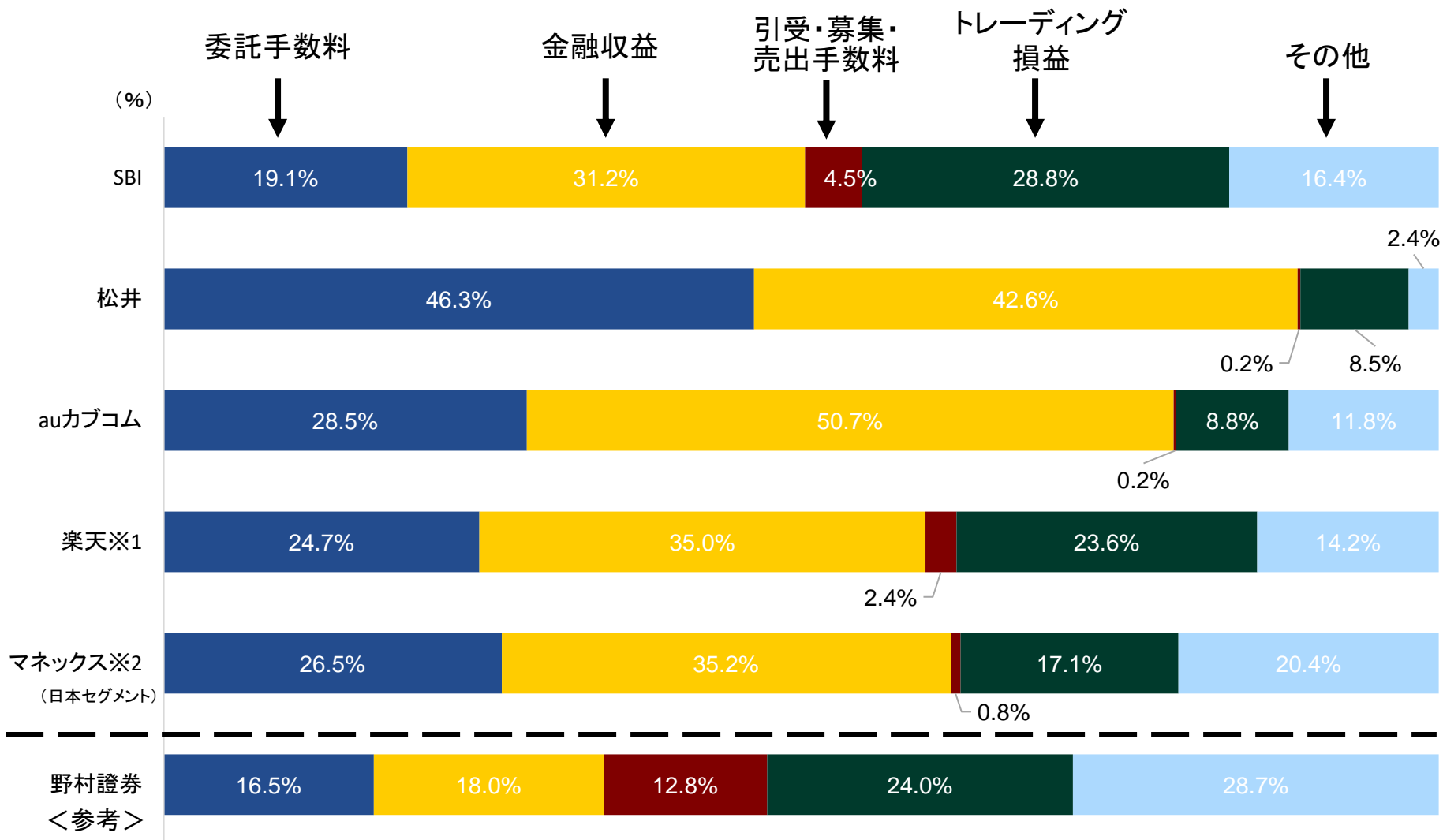
2024年3月期 第3四半期の主な取り組み

実施時期	取組み内容
2023年 10～12月	<ul style="list-style-type: none">• 子ども向け社会体験アプリ『ごっこランド』で「かぶすごろく」ゲームの提供を開始(10月)• WEBサイトでの操作とカスタマーサービスセンターへのお問い合わせをシームレスにつなぐサポートサービスの提供及び新たに2拠点の稼働開始といったお問い合わせ窓口サービスの拡充を実施(10月)• 「第26回企業電話対応コンテスト」の「会長賞」受賞及び「シルバーランク企業」に認定(10月)• SBI FXα(外国為替保証金取引)6通貨ペア追加を実施(10月)• SBI新生銀行間で「リアルタイム外貨入金・外貨出金」「米ドル定期自動入金サービス」を開始(11月)• 米国Raymond James社とのリサーチの相互利用及び機関投資家向け営業業務での提携を開始(11月)• セキュリティ・トークン「いちご・レジデンス・トークン」を販売(11月)• 「ゼロ革命」第3弾として、リアルタイム為替取引における「米ドル/円」の為替手数料の無料化を実施(12月)• SBI証券のポイントサービスに「PayPayポイント」を追加(12月)• ODXのPTS「START」を通じたSTセカンダリ取引を開始(12月)• 「ROBOPRO for SBI証券」サービスを開始(12月)

販売費・一般管理費の内訳



主要インターネット証券各社 2024年3月期 第3四半期営業収益構成比



出所: 各社WEBサイトの公表資料より当社にて集計

主要インターネット証券5社はSBI証券、楽天証券、マネックス証券、松井証券、auカブコム証券

※1 楽天証券の数値は、2018年度より12月決算に変更しており、上記は同社公表の2023年4月～12月の期間での数値を記載

※2 マネックスグループの数値は、マネックス証券を含む「日本セグメント」の数値を記載

＜手数料等及びリスク情報について＞

SBI証券で取り扱っている商品等へのご投資には、商品毎に所定の手数料や必要経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等は価格の変動等により損失が生じるおそれがあります（信用取引、先物・オプション取引、商品先物取引、外国為替保証金取引、取引所CFD（くりっく株365）では差し入れた保証金・証拠金（元本）を上回る損失が生じるおそれがあります）。各商品等への投資に際してご負担いただく手数料等及びリスクは商品毎に異なりますので、詳細につきましては、SBI証券WEBサイトの当該商品等のページ、金融商品取引法等に係る表示又は契約締結前交付書面等をご確認ください。

＜金融商品取引法等に係る表示＞

商号等 株式会社SBI証券 金融商品取引業者、商品先物取引業者

登録番号 関東財務局長（金商）第44号

加入協会 日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会、一般社団法人日本STO協会、
日本商品先物取引協会